

## 平成25年8月1日現在の世帯数と人口

(千種区 18.23K㎡)

学区名	世帯数	人 口			対前月増減	
		総数	男	女	世帯数	人口
1 千 種	4,899	8,397	4,209	4,188	△ 15	△ 17
2 千 石	3,378	6,663	3,381	3,282	10	23
3 内 山	4,870	7,127	3,840	3,287	6	7
4 大 和	3,174	6,593	3,293	3,300	20	32
5 上 野	7,321	15,655	7,635	8,020	△ 9	△ 4
6 高 見	6,293	12,389	5,977	6,412	△ 19	△ 32
7 春 岡	6,354	10,439	5,543	4,896	11	13
8 田 代	11,122	21,299	10,194	11,105	17	51
9 東 山	9,672	18,846	9,214	9,632	△ 6	33
10 見 付	4,311	8,313	4,167	4,146	△ 11	17
11 星ヶ丘	3,347	6,616	2,962	3,654	△ 3	△ 7
12 自由ヶ丘	3,506	7,751	3,530	4,221	9	3
13 富士見台	6,347	15,615	7,209	8,406	△ 14	△ 25
14 宮 根	3,681	8,387	3,971	4,416	4	△ 7
15 千代田橋	3,588	8,735	4,093	4,642	△ 9	△ 6
千 種 区 計	81,863	162,825	79,218	83,607	△ 9	81
H24. 8. 1	80,967	161,494	78,494	83,000	△ 860	△ 106
対 前 年 比	896	1,331	724	607	851	187
名 古 屋 市	1,032,928	2,270,389	1,118,319	1,152,070	544	467
愛 知 県 ( H25. 7. 1 )	2,989,199	7,431,161	3,712,393	3,718,768	1,366	463

前月中の増減内訳	自然動態			社会動態		
	出 生	死 亡	自然増減	転 入	転 出	社会増減
	106	121	△ 15	1,051	955	96

【参考】

国勢調査千種区人口				これまでの最大人口	
昭和50年	168,861	平成7年	148,847	173,598 (昭和50年2月1日)	
昭和55年	166,837	平成12年	148,537		
昭和60年	163,762	平成17年	153,118		
平成2年	156,478	平成22年	160,015	これまでの最少人口	
				146,727 (平成11年4月1日)	

注1) 世帯数と人口は、平成22年国勢調査結果を基礎として、毎月の住民基本台帳人口と外国人登録人口の異動数を加減しています。

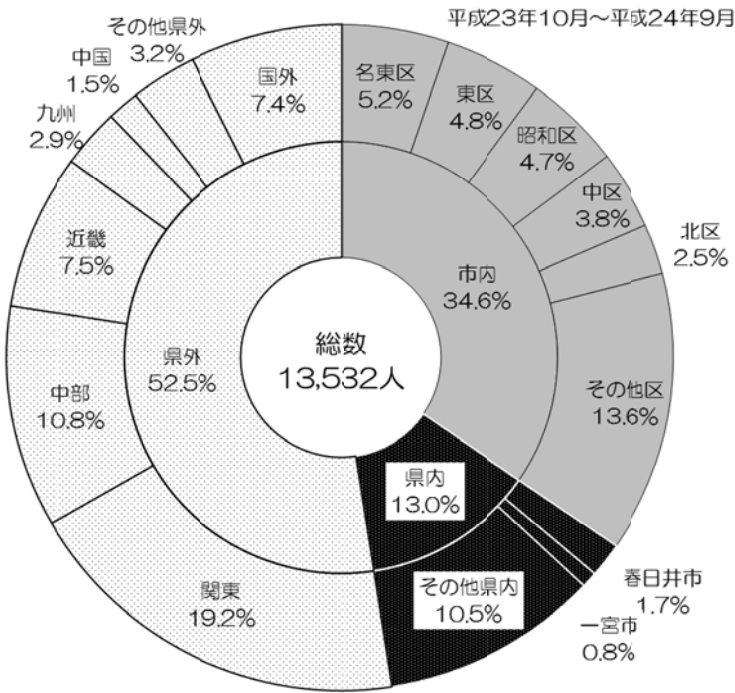
注2) 前月(平成24年7月)中の増減内訳(社会動態)には、法改正に伴う外国人人口の取扱変更による数値変動が含まれています。

統計なごやweb版 <http://www.city.nagoya.jp/shisei/category/67-5-0-0-0-0-0-0-0-0-0.html>

## 千種区の地域別転入・転出者数の状況

平成 25 年 8 月 1 日現在の千種区の人口は前月に比べ 81 人増の 162,825 人となっており、世帯数は前月に比べ 9 世帯減の 81,863 世帯となっています。今回は千種区の転入・転出者数の状況を、名古屋市内、愛知県内および愛知県外に分けて見ていきます。

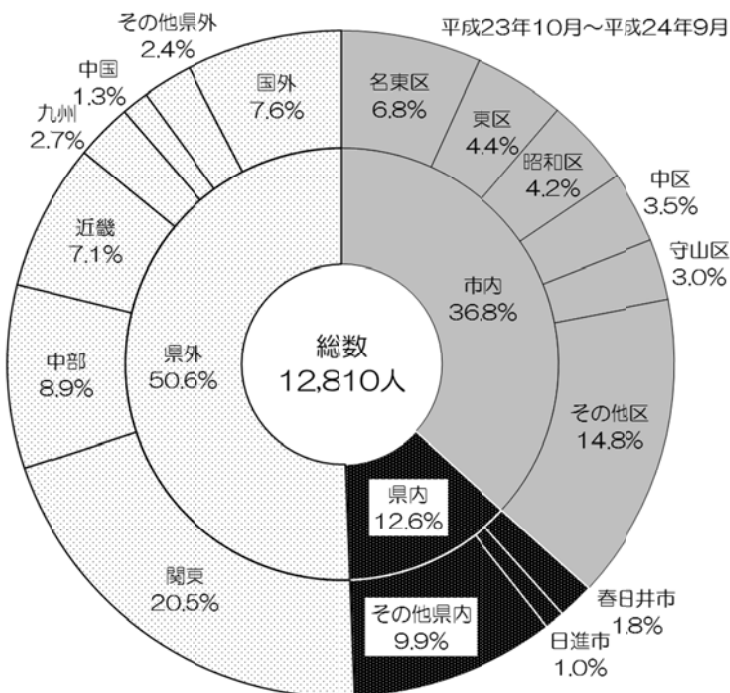
図 1: 千種区の地域別転入者数の割合 (%)



※1 中部地方は愛知県を除く。県内は名古屋市を除く。  
 ※2 比率は小数点以下第 2 位で四捨五入した。

平成 23 年 10 月から平成 24 年 9 月までの千種区の転入者は、市内間の異動を含めると、13,532 人でした。転入元を地域別に見ると(図 1)、愛知県外からの転入者は 52.5%と全体のおよそ半分を占めています。内訳は関東地方が 19.2%と最も高く、中部地方 10.8%、近畿地方 7.5%、九州地方 2.9%、中国地方 1.5%と続きます。愛知県内からの転入者は 13.0%と全体の 1 割強を占めており、春日井市が 1.7%と最も高く、一宮市が 0.8%と続きます。名古屋市内の転入者は 34.6%と全体の 3 割強を占めており、名東区が 5.2%と最も高く、東区 4.8%、昭和区 4.7%、中区 3.8%、北区 2.5%と続きます。また、国外からの転入者数は全体の 7.4%となっており、近畿地方からの転入者数(7.5%)に匹敵しています。

図 2: 千種区の地域別転出者数の割合 (%)



※1 中部地方は愛知県を除く。県内は名古屋市を除く。  
 ※2 比率は小数点以下第 2 位で四捨五入した。

平成 23 年 10 月から平成 24 年 9 月までの千種区の転出者は市内間の異動を含めると、12,810 人でした。転出先を地域別に見ると(図 2)、愛知県外への転出者は 50.6%と全体のおよそ半分を占めています。内訳は関東地方が 20.5%と最も高く、中部地方 8.9%、近畿地方 7.1%、九州地方 2.7%、中国地方 1.3%と続きます。愛知県内への転出者は 12.6%で、春日井市が 1.8%と最も高く、日進市が 1.0%と続きます。名古屋市内の転出者は全体の 36.8%を占めており、名東区が 6.8%と最も高く、東区 4.4%、昭和区 4.2%、中区 3.5%、守山区 3.0%と続きます。また、国外への転出者数は全体の 7.6%となっています。